

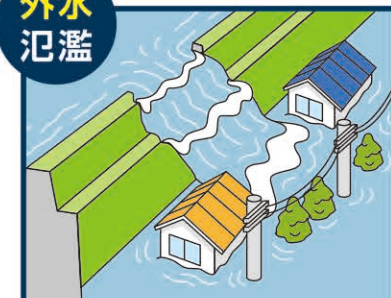
02 災害の特徴

02 洪水・浸水害について

氾濫の種類

雨量の増加によってもたらされる氾濫には、川から水があふれたり堤防が決壊したりして起こる「外水氾濫」と街中の排水が間に合わず、地下水路などからあふれ出す「内水氾濫」の2タイプがあります。

外水氾濫



大雨の水が川に集まり、川の水かさが増し、堤防を越える。あるいは堤防を決壊させて、川の水が外にあふれておきる。氾濫が起きると一気に水かさが増すため、最大の注意が必要。

内水氾濫



その場所に降った雨水や、周りから流れ込んできた水がはけきれずに溜まっておきる。川の水位が何mに達すれば警報を出すなどの対応が難しいため、注意が必要。

浸水深の目安と危険度

あなたの自宅周辺は浸水何m?



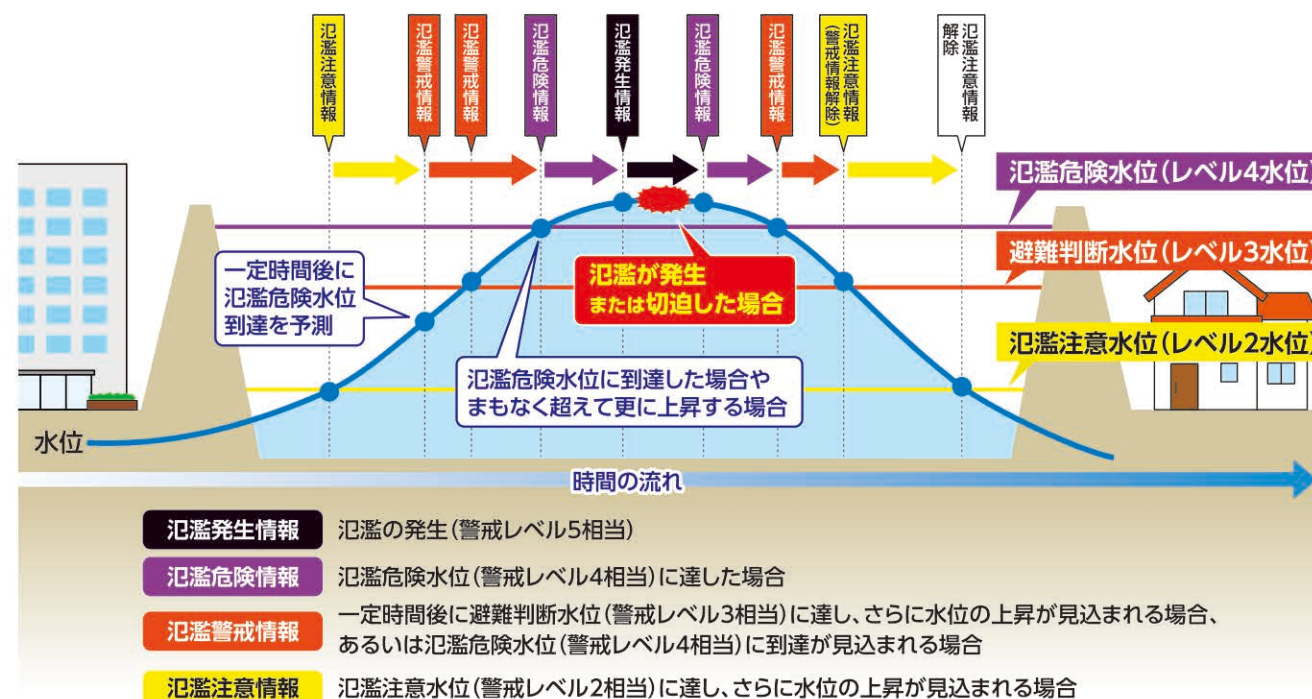
※豊かな住生活を考える会(1994)「図解・日本の住宅がわかる本」PHP研究所 P.119, 141

家屋が倒壊・流出するおそれのある区域

洪水の際、堤防沿いの区域では、激しい氾濫流により木造家屋などが倒壊するおそれや、強い川の流れによって川沿いの地面が削られ、基礎ごと流出する河岸浸食のおそれがあります。このような区域にお住まいの方は、**早めに安全な場所に立退き避難**する必要があるため、想定最大浸水区域図に岡山県が公表している「家屋倒壊等氾濫想定区域(氾濫流・河岸浸食)」を表示しています。



洪水予報の種類



避難行動のポイント、危険な場所

情報の確認

雨や台風などの状況を、テレビ・ラジオ・インターネットなどで確認し、最新の気象情報や避難指示等に関する情報を入手しましょう。



非常持出品の事前準備

避難するときの荷物はリュックに必要最小限とし、事前に準備しておきましょう。



動きやすい服装、集団での避難

避難するときは、動きやすい格好で、二人以上での行動を心がけましょう。長靴はぬげる必要があるのなるべく運動靴にしましょう。



避難時の歩き方

避難中はできるだけ浸水していない場所を歩きましょう。避難途中で危険を感じたら、自宅の二階以上や近所のビルに避難しましょう。浸水している場合には下水道のマンホールや側溝等への転落のおそれがあり危険ですので注意しましょう。



隣近所への呼びかけ

高齢者や子ども、病気の方は早めの避難が必要です。近所の高齢者や子ども、病気の人などの避難に協力しましょう。連絡先や避難場所をとりまとめておくとう便利です。



車での避難は危険

自動車が水に浸かると動かなくなったり、水圧で扉が開かなくなったりして大変危険です。自動車での避難は特別の場合を除きやめましょう。



橋や川の近くは危険

川が増水している場合には、川の流れが速く、橋が壊れたり流されたりして非常に危険です。近寄らないようにしましょう。



川や用水路を見に行かない

大雨の時に、川や用水路の様子を見に行ったことで流されて被害に遭う場合があります。大雨時には絶対に川や用水路を見に行くことはやめましょう。



出典：国土交通省ウェブサイトを加工して作成